

しなのきプランⅡ（令和6年度～令和8年度）

～全ての子どもたちの「自学自習の資質能力」の伸張～
 ＜ R6＞R7 ブラッシュアップ版 ＞



「第三次長野市教育振興基本計画（R4～R8）」に基づく「しなのきプランⅡ」の令和6年度（一年次）の取組状況と、令和7年度（二年次）の方向を「ブラッシュアップ版」として具体化しました。

長野市教育の基本理念

「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」

長野市は市民の皆様とともに
 広い視野から 思いやりの心を育み
 自律心や豊かな情操 想像力を養い
 自然と文化あふれる郷土に 誇りを抱き
 明日を拓くための
 深く豊かな人間性の実現を目指します

■長野市教育の基本理念のもとに策定された「第三次長野市教育振興基本計画」の学校分野における実施計画として推進します。

■予測困難な明日を担う子どもたちに育む「明日を切り拓く力」としての「**自学自習の資質能力**」の伸張を中核に据え、学校・家庭・地域社会との協働と分担により、全ての子どもたちの「自学自習の資質能力」の伸張を支援するための取組を推進します。

「自学自習の資質能力」について

【自学自習の資質能力】とは、

「自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力」

※しなのきプランⅡで再定義



3つの観点	9つの行動
未来に向かって 自分を高める 【みらい】	夢や目標に向かって継続して努力する（意欲・粘り強さ等）
	自信をもって行動し新しいことに挑戦する（自信・チャレンジ等）
	自ら問いをもち、自ら学びを進める（自学自習・計画性等）
他者を思いやり つながる 【きずな】	自分の考えを伝え、他者の考えを聴く（コミュニケーション力等）
	自分を受け入れ、他者を尊重する（自己受容・他者理解・共感性等）
	折り合いをつけながら、他者と協働して取り組む（協調性・折衝力等）
自分をよりよい 状態にする 【じりつ】	規範意識をもち、ルールやマナーを守る（規範意識・自制心等）
	自分の感情や行動をコントロールする（自己コントロール・楽観性等）
	経験から学び、前向きに取り組む（回復力・適応力等）

「しなのきプランⅡ」全体イメージ

目指す
子どもの姿

自ら学び 共に育つ ～ウェルビーイングの実現～



子どもたちの【自学自習の資質能力】の伸張を支援

※【自学自習の資質能力】とは、「自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力」



【子どもを観る】 【子どもの声を聴く】 【子どもと対話する】





未来プロジェクト

具体目標	子どもたちが主体的に取り組む探究的な学びを推進します。
	子どもたちの非認知能力を育むための取組を支援します。
	民間企業・地域・学校種間の連携・協働を推進します。

評価指標と目標

【未来プロジェクト】

みらい

じりつ

きずな

※R6 全国学力・学習状況調査の質問紙調査の質問項目の変更により、評価指標を見直した項目があります。

評価指標 ①		全国学力・学習状況調査 各教科の全国比			
校種／教科		現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
小学校	国語	99.7	100.4		全国比 100 以上
	算数	99.2	99.4		
	理科				
中学校	国語	99.9	99.8		
	数学	98.0	97.1		
	理科				
	英語	94.3			

R6年度未変更		「自学自習の資質能力」に関する質問5項目 (平均)			
評価指標 ②		(1) 自分には、よいところがあると思う。 (2) 将来の夢や希望をもっている。 (3) 分からないことや詳しく知りたいことがあった時に自分で学び方を考え、工夫することができている。 (4) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。 (5) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合)			
		現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
小学校		103.0	101.1		全国比 100 以上
中学校		97.6	99.8		

評価指標 ③		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合)			
		現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
小学校		101.9	101.2		全国比 100 以上
中学校		98.4	99.0		

R6年度未変更		総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 (全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の肯定的な回答の割合)			
評価指標 ④		現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
			94.1		全国比 100 以上
小学校			99.2		
中学校					

評価指標 ⑤	CEFR の A1 レベル（英検 3 級程度）の中学 3 年生の割合 （英語教育実施状況調査、※GTEC）				4
現状 （令和 5 年度）		令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）	
49.5% （GTEC:50.2%）		50.1% （GTEC:53.1%）		60%以上 （GTEC:60%以上）	
※GTEC…スコア型英語4技能検定（株）ベネッセコーポレーション					
評価指標 ⑥	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の全国比 （全国体力・運動能力、運動習慣等調査）				
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）	
	小 5 男子	101.8	100.4		全国比 100 以上
	小 5 女子	99.2	98.8		
	中 2 男子	103.0	101.8		
	中 2 女子	101.4	100.4		
評価指標 ⑦	授業以外の 1 週間の運動時間が 60 分以上の児童生徒の全国比 （全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童生徒質問紙）				
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）	
	小 5 男子	101.3	99.6		全国比 100 以上
	小 5 女子	97.0	98.8		
	中 2 男子	97.1	95.6		
	中 2 女子	93.2	95.0		
評価指標 ⑧	運動やスポーツをすることが好きと答える児童生徒の全国比 （全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童生徒質問紙）				
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）	
	小 5 男子	102.3	102.0		全国比 100 以上
	小 5 女子	102.0	102.0		
	中 2 男子	100.2	99.8		
	中 2 女子	99.0	97.1		
評価指標 ⑨	幼保園の保育参観、小学校の授業参観の実施 （学校経営概要）				
	現状 （令和 5 年度）	令和 6 年度	令和 7 年度	目標 （令和 8 年度）	
	保育参観	54/54	53/53	全ての小学校で 実施	
	授業参観	51/54	52/53		



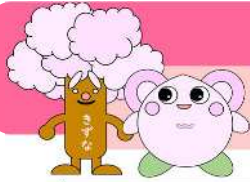
「主な取組」の令和6年度の取組状況と令和7年度の方

5

	主な取組	評価指標	令和6年度の取組状況	令和7年度の方
1	「しなのき Finder」の推進	②③ ④⑩ ⑪	・小4～中3を対象に年間2回実施 ・解説動画や解説資料等を作成 ・自己肯定感、意欲、コミュニケーション等の数値が向上	継続 ・教職員の意見を参考にシステムの改良及び運用の改善 ・解説動画等の活用を工夫 ・新たな研修機会の創出
2	「自学自習の資質能力伸張シート」の活用	①② ③④	・研究主任会（2回）や各校の教職員研修（10回）で、効果的な活用法等を提案、授業改善を促進	継続 ・授業づくり、学級づくりに役立つ新たな活用法の提案
3	GTECの推進 （スコア型英語4技能検定）	⑤	・GTEC研修会を3回実施 ・オンデマンド動画を整備し、GTECを活用した授業改善を推進	拡大 ・参集型研修を拡充 ・教師が授業改善のヒントを得やすい研修内容の工夫
4	非認知能力を意識した研究指定校による実践研究	②③ ④⑪	・研究指定校での授業公開及び職員研修を7回、しなのきピアカフェ（教職員研修）を8回実施、しなのき通信を19回発行、オンデマンド動画を作成して情報発信、共有 ・行動指標を作成する等、非認知能力を意識した取組が推進	拡大 ・「非認知能力を育成するために何をするか」を視点に、授業公開、職員研修及び出前講座を実施 ・研究指定校等を中核とした学校間連携の充実につながる取組を実施
5	非認知能力を意識した研究委員会による授業研究	②③ ④⑤ ⑥⑪	・7研究委員会で授業公開及び授業研究会14回実施 ・「教育センター便り」4回、「研究紀要」及びオンデマンド動画を作成	継続 ・非認知能力を視点とした実践研究を一層推進 ・今後の研究委員会の在り方を検討
6	探究的な学び×GIGAの推進	①② ③④ ⑤⑥	・指導主事が有効的な活用場面や効果的な活用方法を助言 ・R7のオクリンクプラス（ミライシード）の実装に伴い、各校の使い方研修を支援	継続 ・「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」の具現に向けた効果的な活用を提案・助言する機会を創出
7	1人1台端末の有効活用の推進	②③ ④⑧	・情報主任研修会を5回実施し、情報交換を実施 ・民間企業と連携し、授業支援（236件）、研修支援（91件）を実施	継続 ・各校のニーズに対応した授業支援、研修支援の実施 ・環境整備の観点から作業支援に対応
8	キャリア教育支援懇談会の充実	②③ ④	・市キャリア教育支援懇談会を3回実施し、推進校での年間カリキュラムの作成や職場体験学習を通じた取組を支援	継続 ・推進校の実践事例を情報発信し、各校の取組を促進 ・アントレプレナーシップ教育実践研究校への助言
9	「NSSP（かがノスーパーサイエンスプロジェクト）」の推進	②③ ④⑪	・体験プログラム（全4回）、サイエンスキャンプ（1泊2日）、プログラミング講座（全4回）を実施 ・「新たな発見や科学等の楽しさを感じた」参加者の割合が97.5%	継続 ・分野横断的な学びとなる講座やプログラムの実施 ・より多様な体験機会を提供
10	「アスリートと楽しむスポーツ教室」の推進	⑥⑦ ⑧	・アスリートや有資格者等を市立小・中学校の166学級に派遣し、運動プログラムを提供 ・「運動をもっとやりたいと感じた」参加者の割合が88%	拡大 ・実施学級数を170に拡充し、より多くの児童生徒の体験機会を創出
11	「幼保小接続期カリキュラム」の充実	⑨	・7支会毎に授業公開（4月～7月）と保育公開（10月～12月）を1回ずつ実施	継続 ・支会毎の幼保小が連携し、カリキュラムの見直しと更新を実施
12	「幼保小連携会議」による幼保小連携の充実	⑨	・幼保小連携会議を3回実施	継続 ・幼保小の連携協力の在り方や体制整備等の更なる充実
13	アントレプレナーシップ教育の推進	②③ ④		新規 ・市立2中学校で探究プログラムを活用した実践研究を実施

子どもが教え合い、学び合う授業の工夫、学校外の人（企業や地域、多様な他者等）との協働による教育活動の充実を推進することで、「自己肯定感」や「意欲」、「自信」等、未来に向かって自分を高めることにつながりました。
 今後は、探究的な学びや非認知能力を育む取組を推進するため、キャリア教育や、1人1台端末を活用した取組等の更なる充実を図ります。





絆プロジェクト

具体目標

互いに認め合い多様な個性が生かされる教育を推進します。

子どもたち一人一人の個に応じた支援を充実します。

多様な学びの場における学習保障を充実します。

評価指標と目標

【絆プロジェクト】

きずな

じりつ

みらい

評価指標 ⑩	学校に行くのは楽しく、学校は安心できる場所になっている。 (学校評価 児童生徒アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
80.1%	85.2%		現状を上回る

評価指標 ⑪	お子さんは学校に行くことが楽しいと感じていると思いますか。 (学校評価 保護者アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
87.0%	85.1%		現状を上回る

評価指標 ⑫	個別の指導計画の作成を必要とする児童生徒のうち、実際に個別の指導計画が作成されている児童生徒の割合 (特別支援教育に関する体制整備状況等調査アンケート)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
99.2%	98.4% (※市調査)		100%

評価指標 ⑬	個別の教育支援計画の作成を必要とする児童生徒のうち、実際に個別の教育支援計画が作成されている児童生徒の割合 (特別支援教育に関する体制整備状況等調査アンケート)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
98.3%	91.6% (※市調査)		100%

評価指標 ⑭	地域の人々、高齢者や障がい者、外国人などとの対話や交流の機会を設定している。 (学校評価 教職員アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
82.3%	81.1%		現状を上回る

評価指標 ⑮	不登校児童のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない児童生徒の割合 (児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査)		
	現状 (R4数値)	令和6年度 (R5数値)	令和7年度 (R6数値)
小学校	18.7% (全国 33.0%)	18.4% (全国 36.3%)	
中学校	28.8% (全国 37.9%)	17.0% (全国 40.3%)	
			全国を下回る

	主な取組	評価指標	令和6年度の取組状況		令和7年度の方
1	発達支持的生徒指導をベースとした授業改善の推進	⑩⑪ ⑫⑬ ⑭	・学校が安全・安心な居場所となるための「分かりやすい授業」を視点に、市教育センター研修（5回）、各校での職員研修（4回）を実施	継続	・発達支持的生徒指導を視点の授業改善を推進するため、各校の職員研修会で指導主事が支援
2	UD化と合理的配慮を視点にした授業づくりの推進	⑫⑬	・特別支援教育に関する職員研修を7校で実施 ・市教育センター研修で、MIMを活用した指導実践例を情報提供	継続	・どの子にとっても安心した居場所のある学校づくり、授業づくりについて、市教育センター研修を実施
3	パラスポーツや副学級児童生徒との交流及び共同学習の推進	⑧⑭	・「わくわく！オリ・パラスポーツ」を33学級で実施 ・市特別支援教育あり方研究会を3回実施	継続	・「わくわく！オリ・パラスポーツ」を30学級程度で実施 ・好事例をしのぎ通信等で発信し、各校の取組を促進
4	SaSaLANDを中核とした教育支援センター充実プランの推進	⑩⑪ ⑫⑬ ⑮	・教育支援センターとつながった児童生徒数が拡大（R5：110人→R6：223人） ・マイクラフト等のオンライン活動を週3回実施し、教育支援センター等から1日あたり約9人が利用 ・保護者支援として、親の会を月1回、ペアレントトレーニングを5回開催 ・相談窓口（SC、SSW）を設置	拡大	・オンラインを活用し、子どもの活動や保護者支援に係る情報を広く発信 ・SaSaLANDでの活動に、他の教育支援センターの子どもが参加できるようにして、より多くの子どもに多様な体験機会を提供
5	フリースクール等民間施設団体との連携	⑮	・フリースクール等関係者と連携し、学校以外の居場所説明会「長野地域多様な学びフォーラム」を開催 ・居場所紹介紙に22施設を掲載	継続	・居場所や説明会等の情報をより広く周知できるよう、発信方法等を工夫
6	SSW等専門家を含めたチーム支援体制の構築	⑩⑪ ⑮	・市立小、中学校全校のスクリーニング会議にスクールソーシャルワーカーを派遣し支援策を検討	継続	・全校へSSWを派遣、不登校の早期発見・早期対応に向けた支援体制の更なる充実
7	考え、議論する道徳教育の推進	⑩⑪ ⑳	・道徳授業の実践研究を20校、道徳教育研究委員会による公開授業及び授業研究会を7回、教職員研修を2講座で実施	継続	・指導主事が学校訪問し、道徳教育の更なる充実 ・研究委員の資質向上を図り、その実践を通信等で発信
8	人権教育の視点からの授業づくりの推進	⑩⑪ ⑳	・市立全校を人権教育研究指定校とし、実践研究や職員研修等を実施 ・35校で指導主事が学校訪問支援	継続	・市立全校を人権教育研究指定校とし、指導主事等による支援の更なる充実
9	特別支援教育に関する校内研修の充実	⑩⑪ ⑫⑬	・特別支援教育に関する職員研修を7校で実施	継続	・オンデマンド研修動画コンテンツの充実と利用促進
10	一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実	⑫⑬	・指導主事が支援会議や関係者会議に21回、個別の児童生徒の支援に関する授業参観と懇談を41回実施	拡大	・子どもとの関わり方や支援体制の充実のため、市立2小学校で実践研究を実施 ・市教育センター研修を実施
11	いじめ対応フローを活用した組織的な対応の推進	⑩⑪	・「いじめ対応フロー」や「早期対応のポイント」をまとめた資料を作成し、市立小、中学校に配付、活用した取組を推進	拡大	・法に基づいた対応を徹底するため、資料の活用を促進 ・法やガイドライン等に係る解説動画を作成
12	いじめ調査委員（外部人材）の派遣による支援	⑩⑪	・「長野市いじめ問題等調査員」を事案に応じて学校に派遣し、専門的立場から相談・助言	継続	・早期対応・早期解決のため、いじめ事案に応じて迅速にいじめ問題等調査員を派遣
13	不登校児童生徒アウトリーチ支援	⑩⑪ ⑫⑬ ⑮		新規	・自宅で過ごすことが多い子どもを対象に、訪問型のアウトリーチ支援を実施

子どもたちがお互いを認め合い、受け入れ合う環境をつくるのため、一人一人の個性に応じた支援等を行うことで、「コミュニケーション力」や「共感性」、「協調性」、「他者理解」等、他者を思いやりつなげる力が育まれました。今後は、子どもたちの安心・安全な環境づくりのため、いじめの未然防止と早期対応、インクルーシブな教育、不登校の児童生徒への支援等の更なる充実を図ります。





R6➤R7 ブラッシュアップ

8

安全・安心プロジェクト

具体目標	子どもファーストな環境づくりを推進します。
	自分の身を自ら守るための資質・能力の育成を支援します。
	命と健康を守るための学習環境を整備します。

評価指標と目標

【安全・安心プロジェクト】

じりつ

みらい

きずな

評価指標 ⑩ 【再掲】	学校に行くのは楽しく、学校は安心できる場所になっている。 (学校評価 児童生徒アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
80.1%	85.2%		現状を上回る

評価指標 ⑯	学校は地域の方とともに子どもたちの安全確保のための取組を行っている。 (学校評価 保護者アンケートの肯定的回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
80.4%	81.4%		現状を上回る

評価指標 ⑰	子どもたちの健康管理や体力向上のための取組を行っている。 (学校評価 教職員アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
92.3%	91.8%		現状を上回る

評価指標 ⑱	学校は、子どもたちの健康管理や体力向上のための取組を行っている。 (学校評価 保護者アンケートの肯定的な回答の割合)		
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
78.2%	78.9%		現状を上回る

評価指標 ⑲	健康三原則（運動、食事、休養及び睡眠）の大切さを、様々な場面で計画的に伝えようとしている学校の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査 学校質問紙)			
	現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
小学校	107.2	92.8		全国比100以上
中学校	99.0	102.6		

評価指標 ⑳	道徳の授業を受けた達成感 (学校評価 児童生徒アンケートの肯定的回答の割合)			
	現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
小学校	86.0%	85.2%		現状を上回る
中学校	80.8%	83.3%		

	主な取組	評価指標	令和6年度取組状況	令和7年度の方	
1	「長野市子ども議会」の実施	⑩⑪	・児童生徒が長野市について考えたこと等を提案(12組13項目)し、理事者が答弁 ・10回記念のため、過去の提案者が当時や現在の思い、子ども議会へのエールを発表する機会を創出	継続	・児童生徒の意見表明の機会を創出するため、引き続き、実施 ・地方自治を体験的に学ぶ機会を創出
2	学習チューター事業の実施	⑩⑪	・信州大学(教育学部、工学部)、清泉女学院大学の学生が市立小・中・高等学校の希望する教育活動に対して支援	継続	・引き続き、信州大学等の学生が市立小、中、高校が希望する教育活動に対して支援
3	ランチミーティング等による意見交換の実施	⑩⑪	・萩原市長が市立2小学校と市立1中学校を訪問し、今後の長野市やより良い学校環境について意見交換を実施	拡大	・実践校を拡充する ・児童生徒の意見を市の施策検討に反映するよう市関係課へ依頼
4	自ら判断し、正しく行動するための情報モラル教育の推進	⑫	・「年間指導計画」を市立全小、中学校が作成し、情報モラル教育を推進 ・指導主事や専門家が児童生徒を対象に情報モラル教育講演会を4回実施	継続	・市立全校で「年間指導計画」を作成 ・情報モラル教育の充実を図るため指導主事の支援や教職員の動画教材の利用促進
5	「長野市版 新しい水泳学習」の推進	⑬⑭	・市立小・中学校16校で、校外の屋内プール施設での水泳学習を実施 ・事後アンケート調査では、「安全・安心」の質問項目で、児童生徒及び保護者の9割が肯定的な回答	拡大	・新たに小学校3校、中学校1校を加え、19校で校外の屋内プール施設での水泳学習を実施
6	外部機関等との連携による健康教育の充実	⑬⑭⑮	・市学校栄養士会と連携し、食育ポスターを年3回作成	継続	・市学校栄養士会との連携を継続し、市ポータルサイトの教材の一層の充実
7	現代的な健康課題を踏まえた各校の実践的な取組への支援の充実	⑬⑭⑮	・大塚製薬と連携し、熱中症標語コンテストを実施し、市立小・中学校から約150点の応募があった	継続	・標語コンテスト等の継続 ・作品を市立小・中学校に共有
8	実践的な安全防災教育の推進	⑩⑬	・危機管理マニュアルや連携体制を見直し、災害から身を守るための備えを考える機会を創出 ・市立小・中学校の取組のうち、好事例を共有	継続	・市立全小、中学校の担当者を対象に研修会を実施
9	学校施設の老朽化対策・長寿命化対策の実施		・長寿命化改修工事【大規模】4校、【屋内運動場】1校、予防保全工事【中規模】2校で実施	拡大	・長寿命化改修工事【大規模】4校、予防保全工事【中規模】4校で実施
10	今に合わせた学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し	⑩⑬	・学校安全計画や危機管理マニュアルの見直しを適時適切に行い、万が一の際に対応できるよう校長会等で周知	継続	・学校に対し、現状に応じた学校安全計画や危機管理マニュアルの見直しを指導
11	「安全・安心メール」を活用した防災・減災の取組を実施	⑩⑬	・危害獣の目撃情報や夏休み前の水難事故防止や自転車の罰則強化等適切に学校や保護者への注意喚起を実施	継続	・名称を「スクール・ネットワーク・メール」に改め、防災等の情報や市からのお知らせ等を適時適切に配信

子どもたちが心身ともに健康で過ごし、自分の命を自分で守る力の育成等を図ることで、「自制心」や「忍耐力」、「適応力」等、自分をよりよい状態にする力が育まれました。

今後は、現代的な社会課題等に適応したり、自ら判断し、正しく行動したりできる資質・能力を育むため、情報モラル教育や安全防災教育等の更なる充実を図ります。





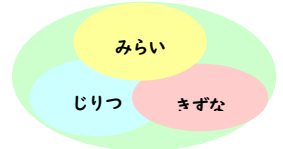
R6➤R7 ブラッシュアップ 充実プロジェクト

10

具体目標	「学びたい！」が学べる教職員研修を充実します。
	先生たちのウェルビーイングの実現を支援します。
	学校や先生たちを指導主事が手厚くサポートします。

評価指標と目標

【充実プロジェクト】



※R6 全国学力・学習状況調査の質問紙調査の質問項目の変更により、評価指標を見直した項目があります。

R6年度未変更		全国学力・学習状況調査 学校質問紙の5項目※に対する肯定的な回答の割合					
評価指標 ②①		※ 評価指標②の5項目と対応した学校質問紙の設問を抽出し、測定。 (1) 担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしている。 (2) 児童生徒は、授業では、自分で学び内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている。 (3) 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行っている。 (4) 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている。 (5) 学習指導において、児童生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している。					
		項 目	現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)	
		小 学 校	(1) 個に応じた指導・支援の充実		100.4		全国比 100 以上
			(2) 個別最適な学びの視点からの授業改善		86.4		
			(3) 探究の過程を意識した指導	91.9	100.4		
			(4) 学級全員で取り組む課題やテーマを 自ら意思決定	97.3	103.5		
(5) 協働的な学びの視点からの授業改善			101.7				
中 学 校	(1) 個に応じた指導・支援の充実		100.4		全国比 100 以上		
	(2) 個別最適な学びの視点からの授業改善		86.3				
	(3) 探究の過程を意識した指導	99.5	88.4				
	(4) 学級全員で取り組む課題やテーマを 自ら意思設定	91.1	103.9				
	(5) 協働的な学びの視点からの授業改善		101.9				

評価指標 ②②	「研修講座で学んだことを自校の教育活動に生かしたい」と回答した割合 (市教育センター 教職員研修講座アンケート 肯定的回答の割合)			
現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)	
99.6%	99.2%		100%	

評価指標 ②③	1 か月あたりの時間外勤務時間の平均 (教職員の勤務時間等調査)			
	現状 (令和5年度)	令和6年度	令和7年度	目標 (令和8年度)
4～7月	47 時間 59 分	48 時間 00 分		45 時間を 下回る
年間	45 時間 29 分 (R5.4 月～R6.3 月)	40 時間 39 分 (R6.4 月～R6.12 月)		

「主な取組」の令和6年度の取組状況と令和7年度の方

11

	主な取組	評価指標	令和6年度の取組状況		令和7年度の方
1	ニーズに応じた多様で質の高い研修講座の構築	②②	・研修講座を118講座開設 ・時期や研修内容、研修形態等を工夫し、参加しやすい環境を整備 ・グループ討議、情報交換等を通じた実践的な研修を実施	継続	・効果的な研修の在り方や、国の教員研修プラットフォーム(Plant)の効果的な活用方法等を研究し、教職員へ周知
2	キャリアステージに応じた経年研修講座の充実	②②	・受講者の声を聴き、研修内容を工夫したところ、事後アンケート調査で肯定的回答が99% ・非認知能力を視点とした授業公開の機会が十分ではなかった	継続	・キャリアステージに応じた研修内容を充実 ・非認知能力の育成を視点とした研修を充実
3	専門性と指導力向上に向けた重点研修講座	②②	・市の教育課題やしなのきプランⅡに関わる重点講座を30講座開設 ・しなのきプランⅡに関することや、研究委員会の授業実践等、研修内容が活用できるよう講座を工夫	継続	・受講アンケートの結果から、重点とする研修講座の検討や研修内容の充実を推進
4	「自ら学び 共に育つ」学校づくり事業の推進	②③ ④⑧ ⑩⑪ ⑫	・市立5校を研究指定校とし、指導主事が非認知能力の育成を視点とした取組が推進するよう支援 ・市立全小・中学校へ実践事例を積極的に情報発信、共有	拡大	・市教委と研究指定校が連携し、市立全校が主体的に授業改善や環境づくりを推進 ・情報発信、研修機会、学校間連携等を充実
5	「自学自習の資質能力」の伸張を中核とした研究委員会の充実	②①	・14回授業公開を実施し、のべ310名が参観 ・長野上水内教育会との共同研究を継続、研究成果の共有及び活用	継続	・研究委員会の在り方について、各委員会での取組や研究成果、研究委員の意見を踏まえ、見直し
6	「NSSP」の推進	①② ③④ ⑤	・理科の教材研究委員を組織し、授業公開(4回)、実践発表会(2回)、教材発表会・研究会(3回)を実施	拡大	・新たに生成AIを研究するための委員を組織し、授業や校務での活用を研究
7	「学校における働き方改革推進のための基本方針」の更新&実施	②③	・アンケート調査で各校の取組や教職員の意見を把握、その結果を参考に、基本方針改定版を作成 ・「長野市の学校における働き方改革推進に向けた懇談会」を3回実施	拡大	・基本方針改定版に基づき、働き方改革を推進 ・市立全中学校に採点支援システムを導入 ・「働きがいアンケート(仮)」の実施
8	外部人材の派遣や関係機関との連携による業務の適正化を推進	②③	・信州大学 荒井英治郎氏、学校関係者及び市PTA連合会の代表者等から助言を受け、業務適正化の検討を推進し、来年度の取組等を提案	継続	・懇談会を開催した上で、外部有識者や関係団体等と連携し、業務の適正化を更に推進
9	学校における授業改善をサポートする対話型訪問支援の充実	②③ ④⑫ ⑬⑭	・指導主事研修会(10回)を実施し、対話型訪問の基本方針を模索 ・年度当初の派遣(85件)、しなのき派遣(90件)の要請を受け、教師×教師、教師×指導主事のクロストークにより授業改善を支援	継続	・認知能力と非認知能力の一体的な充実や単元のまとまりを意識した授業改善を一層推進 ・教職員との対話を重視した授業支援を充実
10	学校の諸課題を支援する「さっと学援隊」による訪問支援の充実	⑩⑪ ⑫⑬	・多様化、複雑化している課題に対し、教職員との面談や支援会議への参加等、学校と伴走しながら助言・指導	継続	・子どもを主語に、学校に寄り添い、必要感に応える迅速かつ適切な支援を実施
11	多様なニーズに臨機応変に対応する「しなのき派遣」の充実	②③	・若手教員の相談、個別支援計画の作成、総合学習発表会での助言、部活動の地域移行等、学校の多様な要望に応じた学校訪問支援を実施	継続	・学校の願いや要望に寄り沿い、学校の満足度が高い、柔軟で迅速な指導主事による学校訪問支援を実施

教職員がやりがいを感じながら力量向上に取り組む仕組みをつくるとともに、学校を支える学校訪問支援を実施すること等を通じて、教職員の資質・能力が高まりました。

今後は、教職員のウェルビーイングの実現のため、教職員による次期プラン構想、学校における働き方改革、指導主事による対話型学校訪問支援等の更なる充実を図ります。



非認知能力の育成を図る取組について

～令和6年度の成果と令和7年度の方角～

12

長野市教育委員会事務局
学 校 教 育 課

I 「しなのきプランⅡ」の基本的な考え方

社会状況の多様化・複雑化が進み、予測困難な時代の中、子どもが受動的に授業を受ける教育から、自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力(自学自習の資質能力)を育む教育への転換が求められています。そこで、「しなのきプランⅡ」では、非認知能力を意識した教育活動の工夫や授業改善を推進し、全ての子どもたちの「自学自習の資質能力」の伸張に向けた取組を推進します。



II 長野市教育委員会の主な取組

1 研修会等

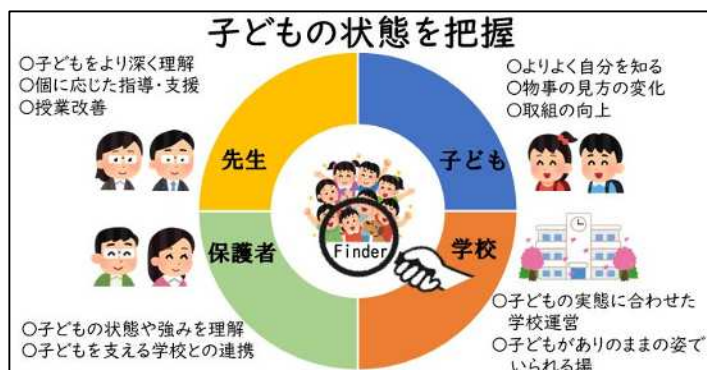
- (1)長野市教育センター研修
 - ・教頭マネジメント研修(講師:IPU環太平洋大学 中山芳一 特命教授)
 - ・校長マネジメント研修(講師:IPU環太平洋大学 中山芳一 特命教授)
 - ・自ら学び共に育つ子どもの育成に向けて①(講師:信州大学 高橋史 准教授 三和秀平 准教授)
 - ・自ら学び共に育つ子どもの育成に向けて②(講師:IPU環太平洋大学 中山芳一 特命教授)
- (2)学校教育課主催研修
 - ・研究指定校における授業公開・授業研究会(4回)
 - ・しなのきピアカフェ(年間8回)
 - ・しなのきプランワーキンググループ会議(年間5回)

2 学校訪問支援等

- ・しなのきプランⅡに関わる指導主事による学校訪問支援の実施(27校)
- ・参観日を活用した、指導主事による「しなのきプランⅡ」の概要説明を保護者向けに実施(3校)
- ・信州大学高橋史准教授を講師とした研修の実施(2校)
- ・IPU環太平洋大学中山芳一 特命教授を講師とした児童向けの出前講座の実施(1校)

※令和7年2月5日現在

3 しなのきFinderの実施(年間2回)



【しなのきFinderの目的】

The report is titled '個別レポート Personal Report' and 'あなたのウェルビーイングとスキルについて' (About your well-being and skills). It contains two main sections: '9つのウェルビーイング' (9 Well-being) and '9つのスキル' (9 Skills). Each section has a table with 9 items and a corresponding score or status. The 'ウェルビーイング' section includes items like '自分を知ること', '物事の見方', '取組の向上', etc. The 'スキル' section includes 'コミュニケーション力', '自己管理能力', etc. The report also includes a 'スキルタイプ' (Skill Type) section with 'コミュニケーター型' (Communicator type) and 'リーダー型' (Leader type).

【子どもへ返却されるレポート】

1 実施概要

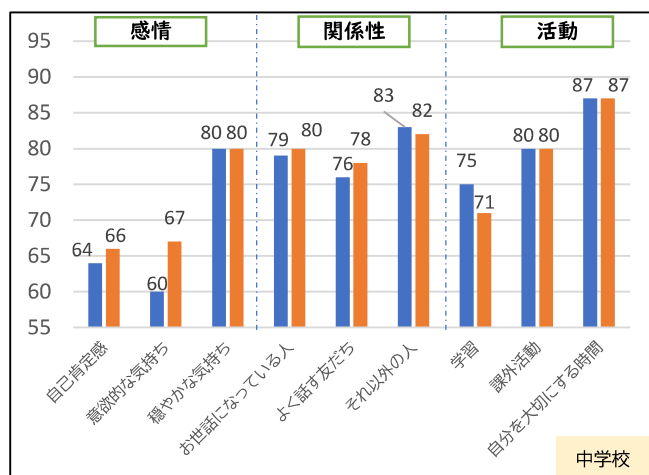
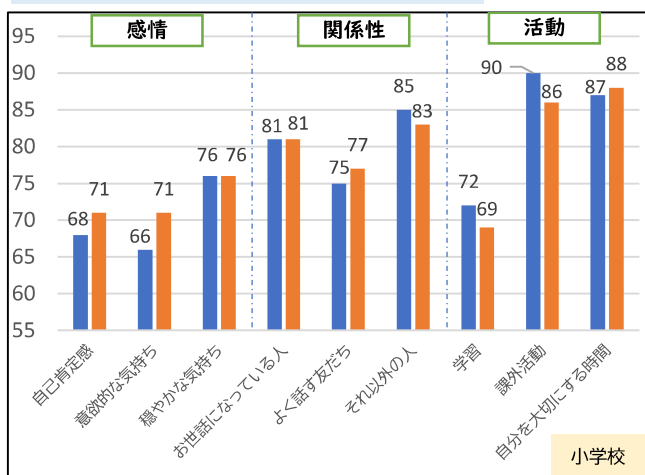
(1) 実施時期	第1回	令和6年5月20日(月)～6月7日(金)
	第2回	令和6年12月2日(月)～12月13日(金)
(2) 対象	小学校4年生～中学校3年生	
(3) 実施人数	第1回	小学生 8313名 中学生 7961名
	第2回	小学生 8408名 中学生 7875名

2 長野市の「しなのきFinder」の結果

■ 春 ■ 秋

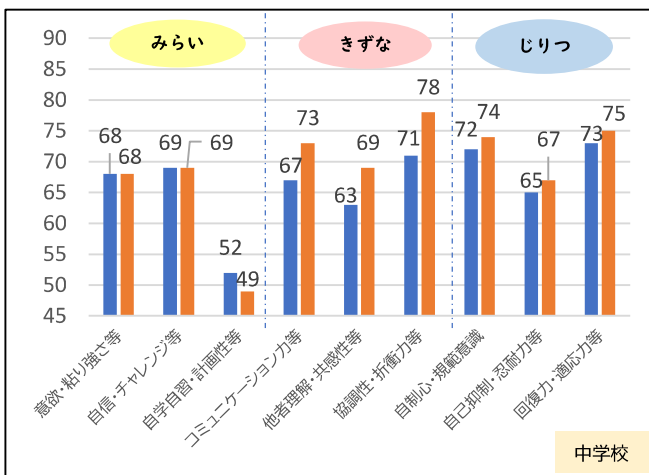
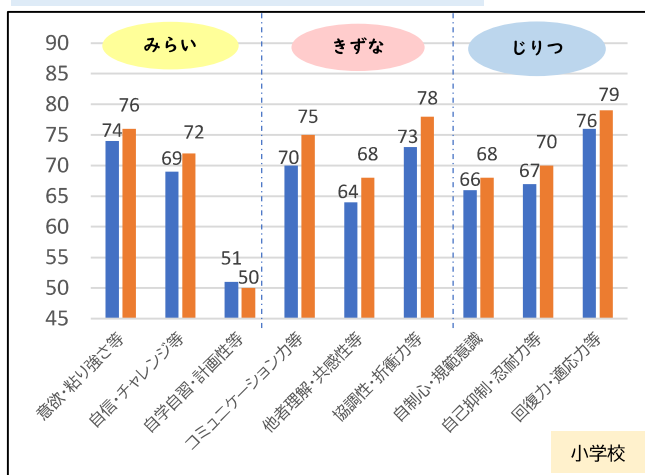
(1) 9つのウェルビーイング

※長野市全体の平均値



(2) 9つの非認知能力

※長野市全体の平均値

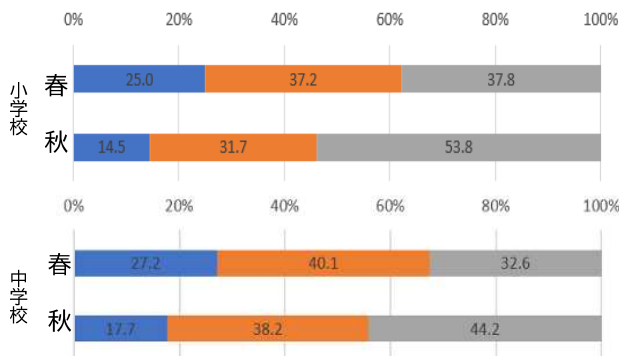


3 しなのきFinder開発者(信州大学 高橋史准教授・三和秀平准教授)による結果の考察

- 【自己肯定感】については、全体的に安定しているが、中学生は低い傾向がみられることから、自己肯定感を高めるための学校環境や子どもへの支援の工夫を継続して行う必要がある。
- 【他者との関わり等】については、児童生徒が互いのポジティブな面を認識する意識が十分に育まれているため、今後もこれまでの取組を維持・発展させることが大切である。
- 【学習への向き合い方等】については、小学校から中学校への移行期に変化が見られ、中学1年生は生活を通じて大きく考え方が変化している。そのため、中1ギャップのように環境変化から悩むことが多いこの時期の生徒の支援を丁寧に行う必要がある。
- 【学習方略】については、「分からないことは親や先生に聞く」の割合が第1回から第2回にかけて低下している。今後は、質問しやすい関係性の構築と、主体的な学びを育むために「関連づけて覚える」などの学習方略の支援の工夫が必要である。

私は、心配ごとが多い。【自信・チャレンジ】

■あてはまる ■まああてはまる ■あてはまらない



私は落ち着きがなく、じっとしていられない。【自己抑制・忍耐力】

■あてはまる ■まああてはまる ■あてはまらない



要因

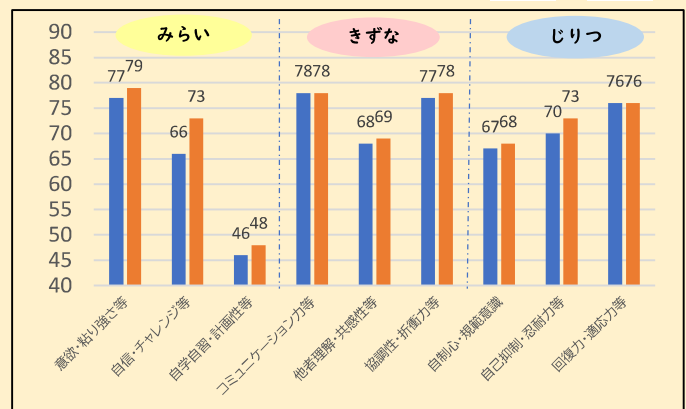
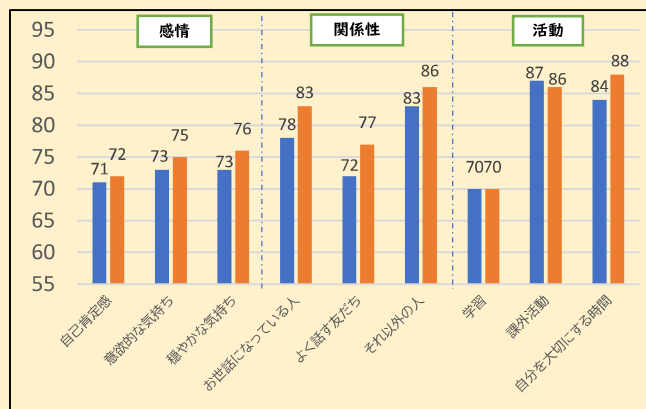
- ・子どもが「しなのきFinder」の結果をもとに、自分の“よさ・強み”“意識すること”などを具体的に理解できたため、安心感が増し、自信につながった。
- ・教師や保護者が、子どもとの対話を通じて、子どもの気付かなかった“よさ・強み”を丁寧に伝えたため、子どもが落ち着いて生活することができるようになった。

5 研究指定校の取組と変容

(1) A校の取組:子どもの認知や特性が多様であることに着目し、「チャレンジタイム」で「みらい」にフォーカス

※「チャレンジタイム」P5参照

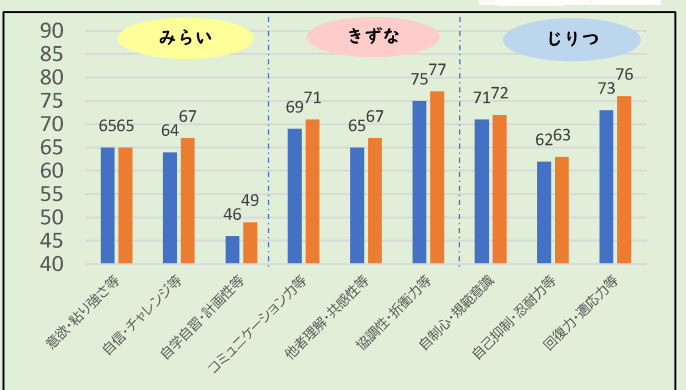
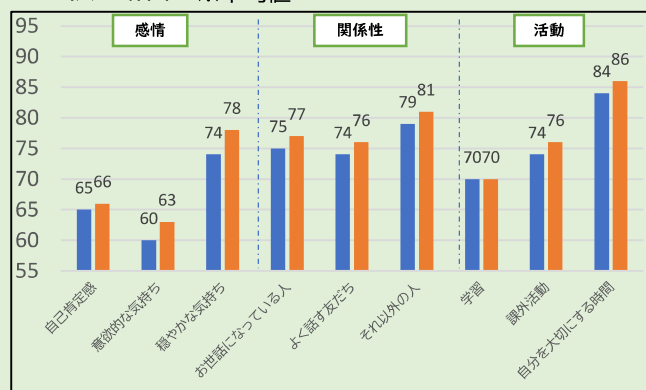
A校の結果 ※平均値



(2) B校の取組:子どもの追究心を引き立てることを狙いとした、「セルフスタディータイム」で「じりつ」にフォーカス

※「セルフスタディータイム」P5参照

B校の結果 ※平均値



フォーカスした観点が他の観点にも影響し、バランスよく全ての観点が育まれている傾向

<< 研究指定校等の主な取組 >>

全ての研究指定校で共通して【みらい】が上昇傾向

- ★行動指標を作成し、教師と子どもが行動指標を共有
- ★行事や授業改善等の具体的な場で振り返りシートを活用
- ★「しなのきFinder」を授業改善や子ども支援に活用
- ★研究指定校間での授業公開や情報共有で、好事例を参考に自校の取組をブラッシュアップ

次年度へ

研究指定校等の実践を市立小中学校へ発信し、学校間の連携をより一層強化

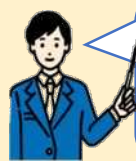
1 行動指標を軸とした取組

(1) 教職員研修で学級の行動指標を作成

子どもを観る視点を
ブラッシュアップ!!



- 子どもの具体的な姿をエピソードで語る
- 目指す子どもの姿の実現に向けて学級の「自学自習の資質能力伸張シート」を作成



先生方の声

「しなのきFinder」の結果をもとに、子どもの姿を振り返ることで、その行動の裏にある背景を考えることができ、子どもを見る新たな視点を得ました。

(2) 教職員研修で行動指標の振り返り

子どもの見取り方を
ブラッシュアップ!!



- 行動指標の観点と子どもの姿を照らし合わせ、子どもを多面的に見て振り返る時間を確保
- 振り返りから行動指標を見直し更新

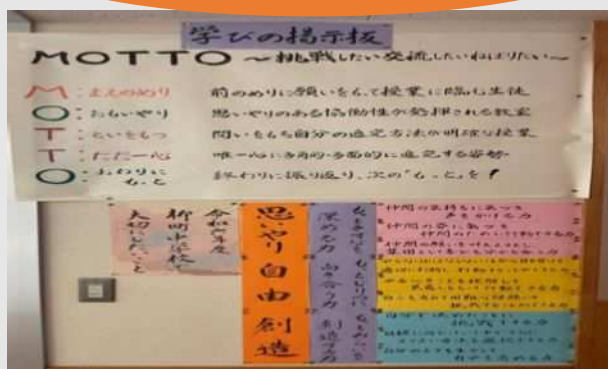


先生方の声

行動指標を観点として、子どもの姿を振り返ることで、子どもを様々な角度から見られるようになったと感じます。

(3) 全校で行動指標を意識した学校生活

学習観を
ブラッシュアップ!!



- 行動指標を子どもと共に作成・掲示
- 行動指標を教師と子どもが共に意識した授業実践と定期的な振り返りの実施



先生方の声

生徒と共に作った行動指標に常に立ち返るようにすることで、子どもたちの心に灯をともし授業改善につなげることができました。

(4) 行事を生かした非認知能力の育成

授業以外での育み方を
ブラッシュアップ!!

【運動会の前に】確認、自分の非認知能力はどんな感じ？		月 日					
	9つの非認知能力、今の私は・・・	とても	5	4	3	2	1
みらい	1 目標に向かってあきらめず取り組める						
自分	2 苦手な事にもチャレンジできる						
高め	3 具体的な目標を決めて、計画的にコツコツと取り組める						
きずな	4 みんなのためになりをすべき考え意見を出したり、自分の役割を果たしたりできる						
思いやり・つながり	5 自分や友達のいいところやがんばっているところをきくことができる						
	6 まちがったり失敗したりした時に支え、助け合える						
じりつ	7 ルールやマナーを守って行動できる						
自分	8 自分の心をコントロールしやるべきことに集中して取り組める						
よくする	9 落ちこんでも、自分で気持ちを切り替え回復させることができる						

★運動会を通して、自分が伸ばしたい非認知能力

その力をのびたいと思った理由

- 行動指標をもとに、学校行事に着目してアンケートを作成し、行事の前後に実施
- 結果から子どもの変容を把握し、価値付ける



先生方の声

子どもの非認知能力の状態を把握し、育みたい非認知能力を子どもと共有し、同じ目標をもって行事に取り組むことで、行事の前後で非認知能力の高まりを実感できました。

(1) 単元を通して「チャレンジタイム」を設定(A校)



- 単元内自由進度学習で国語と社会の2教科同時進行
- 子どもが自分で学習計画を立てられる学習を計画
- 子どもの認知や特性に応じた教材を提供

子ども自身が自分に合った学び方や場所を選択・決定しながら取り組み、非認知能力の視点を大切に振り返りを行っています。



先生方の声



子どもたちの声

自分でどのように取組を進めていくかを考えることで、先を見据えた計画を立てられるようになりました。

みらいUP!!

(2) セルスタディータイム／ウィーク(B校)



- 日課の工夫等で子どもが主体的に取り組める時間を確保
- 外部の方を講師とした講座に子どもたちが自由に参加



「セルスタウィーク」では、何度も失敗しましたが、最後に成功できてよかったです！

みらいUP!!



子どもたちの声

先輩や他の組の人と関わる中で人の温かさを感じることができました。

きずなUP!!

(3) 全学年で「図工の日」を設定(C校)



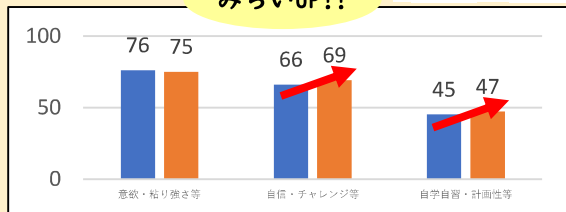
- テーマに沿って自分の思いを自由に表現できる日課を設定
- 一日を通して個人追究や協働追究を体全体を使って図工に取り組む時間の設定



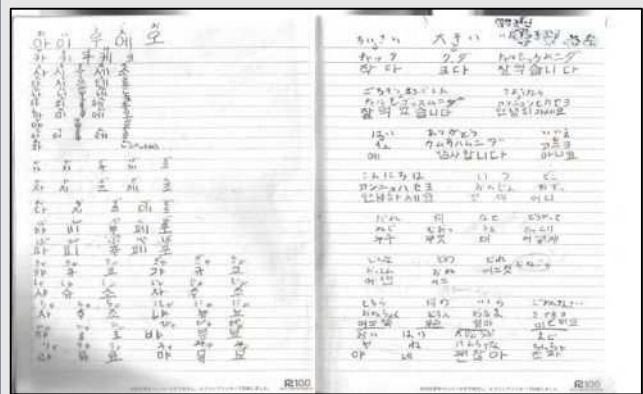
子どもたちの声

時間を忘れて夢中で自分の思いを自由に表現することができました。

みらいUP!!



(4) 週2日の朝の時間で自己テーマを追究(D校)



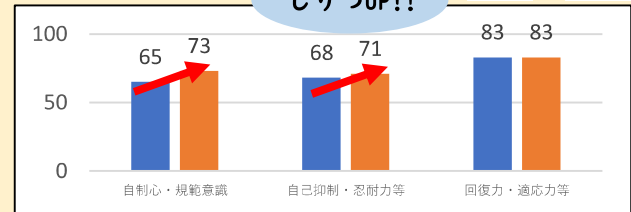
- 朝の時間(15分間)で子どもが自己テーマに沿って、自らチャレンジできる時間を設定
- 子どもの振り返りから成長を認め支援



子どもたちの声

苦手な算数に取り組んでいます、家でも続きを自分なりに取り組んでいます。

じりつUP!!



(1) 教職員研修で子ども理解を深める

子どもを観る視点を
ブラッシュアップ！！



- レポートの結果から、子どもの状態を把握したり、子どものよさや新しい一面を見つけ出したりし、今後の声掛けや支援を検討
- レポートをもとに子どもと対話



子どもたちの声

先生と「しなのきFinder」のレポートを見ながら、話しをし、自分のよい所が多く見つかりました。これから、自分の“よさ・強み”に自信をもって生活していきたい。

(2) 子どもの実態に応じた授業づくり

授業観を
ブラッシュアップ！！

学級レポートの活用

Aクラス



ヒーラー型

全体の47%

クラスやチームに欠かせない回復役
共感性に優れている

安心してチャレンジできる
学習活動

Bクラス



コミュニケーター型



ホットエンジン型

合わせて全体の53%

友達の良さを引き出し、協力して取り組むときに
良さが輝く
周りの人と一緒にたくさんの経験をして成長していく

友達とかかわりながら取り組む
学習活動

- 学級レポートから各クラスの状況を把握し、学級のよさを生かした授業を実践
- 個別レポートから、個に応じた個別指導やグループ活動の取り入れ



先生方の声

同じ单元でも、「しなのきFinder」で読み取ったクラスの“よさ”や“強み”を活かしながら授業を行いました。子どもたちの生き生きと授業に取り組んでいる姿が見られました。

V 令和7年度へ向けた取組の提案について

提案1

行動指標を教師と子どもで共有

学校教育目標実現に向けて、教師と子どもの思いが詰まった行動指標を作り、学校全体で非認知能力を意識してみませんか。

提案2

行事等を活用した非認知能力の育成

学校行事等で得られる体験活動を通して、非認知能力の育成にアプローチをしてみませんか。

提案3

子どもが主体的に取り組める時間の設定
子どもの「やりたい!」「楽しい!」という気持ちに寄り添い、思う存分取り組める環境を整えることで、ウェルビーイングや非認知能力を育んでみませんか。

提案4

「しなのきFinder」の結果を活用した子ども支援

「しなのきFinder」の結果から子どもの「よさ・強み」等を把握し、子どもへの声掛けや支援に役立ててみませんか。

提案5

教師も子どもも
非認知能力を意識した授業実践

教師と子どもが授業で育みたい非認知能力を共有し、実践・振り返りを積み重ねていく授業づくりをしてみませんか。

市教育委員会では、非認知能力を育むためのキッカケとなる動画を作成しました。年度末や年度始めの職員研修等でご活用ください。校務用ポータル「教育センター・研修講座ポータル」または、下の二次元コードより、ご視聴いただけます。



指導主事



研修動画①
なんだ！非認知能力って
そういうことか！！



研修動画②
やってみよう！あなた
の学校の行動指標づくり



研修動画③
子どもの非認知能力を
くすぐる「ギミック」の秘密



研修動画④
意外と知らなかった！
効果的な「振り返り」の仕方



研修動画⑤
先生方が「子どもを見る
目」を磨きましょう